

(別紙5)

整理番号 2018P-136
補助事業名 平成30年度 障害のある人が幸せに暮らせる社会を創る活動 補助事業
補助事業者名 一般社団法人 日本自閉症協会

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

自閉症スペクトラム（以下ASD）の方を取り巻く環境は日々変化しており、近年では新聞やテレビなどのマスメディアでも発達障害について取り上げられ、自閉症スペクトラムの社会的認知は高まっている。また、障害者差別解消法の施行や発達障害者支援法が改正され、制度の確立により福祉サービスも少しずつではあるが拡充されつつある。その一方で、福祉サービスの対象から外れてしまう人や、多様な障害特性に対応できる支援者の不足、住んでいる地域での理解が万全ではないことなどから、ASDの方やその家族が地域で安心して過ごせるようになるためには、まだ問題が山積している。

以上のことを踏まえ、ASDの方が安心して地域で生活できるように、ASDの本人やその家族への情報発信、サポートだけではなく、ASDの方を支援する支援者等関係者への情報発信や一般への理解啓発など、広く社会全般にASDの理解促進のための活動を行うことを目的とする。

(2) 実施内容

①ASDのある人の地域生活を豊かにする学習相談会

(URL) <http://www.autism.or.jp/report05/keirin/h30jka.pdf>

ASDのある人とその家族や支援者等を対象とした学習相談会を全国6箇所（8回）開催した。学習相談会は、前半は医師や教授などの専門家による講演会、後半は参加者の個別相談や意見交換会等の2本立てとなっている。講演会の内容については、各開催地域の実情を踏まえて、地域のニーズを汲み取った上で講師の選定、テーマ設定を行った。前半の講演会では、参加者はASDに関する理解を深め、後半の相談会では個別の相談やより具体的な事例に対して、専門家が対応した。



(別紙5)

②ASDのある人とその家族のための集団指導キャンプ

(URL) <http://www.autism.or.jp/report05/keirin/h30jka.pdf>

ASDのある人とその家族を対象とした1泊2日の集団指導キャンプを全国5箇所で開催した。このキャンプでは、参加者親子は2日間にわたり他の参加者と集団生活を共にして、医師や大学教授、支援者である専門家の療育プログラムのもと、集団生活への練習や対人コミュニケーション等の社会的スキルの向上を目指した。キャンプ中は、子どもが安全にプログラムに参加できるように、複数の支援者や一般（学生）ボランティアが子どもに付き添った。子どもが療育プログラムに取り組んでいる間、日頃子どもにつきっきりの親は、他の親御さんと意見交換をし、同じ親同士にしかわからない悩みを共有・共感した。子どもが寝静まったあとは、支援の専門家が参加者層に合わせたテーマで講演会開催し、その後、その専門家も交えた茶話会や懇親会を開催した。



③ASDのある人やその家族、支援者のための指導誌の発行

(URL) <http://www.autism.or.jp/report05/keirin/h30jka.pdf>

ASDのある人やその家族、支援者、一般の方に向けたASDの基本情報が掲載された冊子「自閉症スペクトラムの理解と支援のために」を作成した。作成には、医師や大学教授等で構成される委員会を結成し、掲載内容について検討した。冊子はASDに関係している人だけでなく、一般の方が手にとってわかるように、基本情報や障害特性についてを簡潔にまとめるとともに、実際の接し方のポイント等も掲載している。また、相談機関の一覧も掲載しているため、読み手は困っている事柄に対して適した相談場所を知ることができる冊子となっている。



(別紙5)

2 予想される事業実施効果

①ASDのある人の地域生活を豊かにする学習相談会

地域性を考慮したテーマ設定のもと、学習相談会を開催することで、ASDのある人やその家族の方へのASDに関する理解を深めることができる。本事業で得たASDに関する福祉サービス活用や療育の手段等の情報は、参加者本人の生活のしやすさにつながる。また、支援者を対象とした学習相談会では、具体的な事例についての検討等も行うことができ、本事業に参加した支援者はASDの方の理解者となり、ASDの人が今後生活していく上での心強い支えとなる。

②ASDのある人とその家族のための集団指導キャンプ

親子で参加する1泊2日のキャンプを通して、ASDのある人が苦手とする対人コミュニケーションスキルや集団でスケジュールどおりに行動できることなどの社会的スキルの向上を図った。ASDの人は障害特性もあり、他の人と一緒に行動をすることは不得意だが、キャンプ終了後にキャンプ中にできた友人と家族同伴と一緒にでかけるようになったり、作業所に通う以外は家に閉じ籠っていたASDの人が外に遊びにでるようになった等の声も届いている。

一方、ASDの子どもを持つ親は、他の参加者との意見交換を行うことができ、理解のある支援者がいる施設や学校の情報等、地域で生活する上で必要不可欠な情報を得ることができた。そして、子どものことでストレスフルだった親が、似た経験を持つ年配の親御さんからの助言や、講師のアドバイスを受け、考え方の転換や子どもの将来に向けての目標を明確に定めることができたとの声も届いている。地域でできたつながりは、孤立して地域の情報を全く得ることができなかった親の助けとなる。

③ASDのある人やその家族、支援者のための指導誌の発行

冊子には、自閉症スペクトラムの基本的な考え方や特性、ASDの人に伝わりやすい接し方が掲載してあるので、今後一般の方がASDの人とふれあう際に活用されることが期待される。また、ASDに対する社会全般の理解は十分ではないため、子どもや自分自身がASDと診断を受けても誰にも相談できずに孤立している人は多い。本冊子では、障害特性から生じる困りごとに応じた相談先の一覧を掲載しているため、誰にも相談できずに孤立している方がどこかにつながっていく際に活用いただける。

3 補助事業に係わる成果物

(1) 補助事業により作成したもの

自閉症スペクトラムの理解と支援のために（基本のキ）

(別紙5)

(URL) <http://www.autism.or.jp/report05/keirin/h30jka.pdf>

(2)(1) 以外で当事業において作成したもの
該当なし

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 一般社団法人日本自閉症協会
(イッパンシャダンハウジンニホンジヘイショウキョウカイ)

住 所： 〒104-0044
東京都中央区明石町6-22 築地ニッコンビル6F

代 表 者： 会長 市川 宏伸 (イチカワ ヒロノブ)

担 当 部 署： 日本自閉症協会 事務局
(ニホンジヘイショウキョウカイ ジムキョク)

担 当 者 名： 事務局職員 陳野 功 (ジンノ コウ)

電 話 番 号： 03-3545-3380

F A X： 03-3545-3381

E - m a i l： asj@autism.or.jp

U R L： <http://www.autism.or.jp/>